

無線で火災連絡

“ボタン一つ”の最新鋭機



無線遠隔サイレン放送制御装置

「ただいま」

火災発生

消防本部のボタン一つで久礼田稲生など、市内六カ所の消防屯所のサイレンが鳴り、スピーカーに切り替えると放送ができる。無線遠隔サイレン・放送制御装置。なるものが、昨年十二月から市消防本部（消防署）でスタートしている。

「日章の各消防屯所のスピーカーを無線で結ぶ最新鋭機。火災が発生すれば本部から「ただいま第〇中隊、〇〇地区が火災ですの出動願います」と放送すれば、いながらにして各地域の消防屯所スピーカーから放送され、消防団員や市民に周知できる仕組みだ。」

全国のトップをきって設置された和歌山県白浜町を二昨年にたすね、導入をすすめていたもので、この装置、一カ所の設置費が約五十万円、しめて三百万円で作られた。

消防本部では、この装置をつかって火災の発生、鎮火はもちろん十二時を知らすサイレン。火災の発生と場所、応援出動の要請、鎮火のお知らせ放送などにフル活用している。

基地局のボタン一つで個別に、または数カ所のグループ群に、あるいは全消防屯所一斉にと、自由自在にコントロールできるところから迅速、かつ正確な火災の連絡と消防体制がとられ、「一秒を競う」消火活動に鬼に鉄棒」と評判も上々だ。

ただ、各消防屯所のサイレンが故障したとき、基地局での確認ができないところから、非常時のテストをかねて「お昼の時報サイレン」とテスト放送」をしている。

火災と救急は119番へ

注意

火災のときまちがって110番をダイヤルすると一度県警本部（高知市）に入り、その後南国警察署から南国消防署に通報されることとなります。このため、必ず火災と救急は119番に場所などをはつきり知らせてください。なお、南国市内で電話が高知局になっているときは08886-③3511へダイヤルしてください。

きょうの話題 あすの話題



基地局

一秒を競う 消防体制

市では、五十年の一年間で火災件数四十一件、消防車の出動車輛は延べ二百六十六輛（四百五十四、署六十二）出動人員は一千六十五人にも達し、約四千五百六十七万円が灰になっている。

これらの原因の主なもの火の不始末を筆頭にタバコ、火遊びなどが多く、空気の乾燥する十二月が六件、冬場の十一月から翌三月までが二十件で、一年間の火災の約半分を占めている。

市民の火災に対する予防意識や消防体制はすすんだものの、ちょっとした不始末で生命や財産を失うことも多い。

市消防署では消防施設整備計画をたてて消防自動車や防火水槽などの充実につとめてきたが、火災は一秒を競い、不意、万一の場合に備える体制が必要視され、無線装置の導入に踏みきったもの。

市内全域に 将来は

これまでは消防本部のサイレンを鳴らすと火災の場所の問い合わせが、団員や市民からひっきりなしにあったものが緩和され、消防の連絡体制が密になるものと期待している。また、一カ所に消防車が集中する弊害——例えば、消防車や一般家用車のため現場に近づけなかったり、交通渋滞で進みも引きもできず、水利の悪いとき運けいがとれない、同時期に他の場所でも第二次、第三次火災が起ったときに対処できないなどもある。そこで、消防団を第一中隊（北部）第二中隊（中央）第三中隊（南部）に分けて消防体制の充実につとめている。

無線体制は、まだ市内六カ所です十分ではないが「基地局には四〇カ所セットできる余裕があり、将来は市内全域の二三カ所の消防屯所に設置、迅速で的確な消防体制にしたい。」と、川田正雄消防長も意欲十分に話していた。

